

# 生物多様性かねがさき地域戦略

～ずっところからも、自然と支えあい共に生きるまち 金ヶ崎～



岩手県金ヶ崎町

# あいさつ



岩手県金ケ崎町長 高橋 由一

金ケ崎町は、北上川、胆沢川などをはじめとする周辺の水辺と、駒ヶ岳の裾野に広がる山林や牧草地、さらに平野に広がる田畑など、水と緑に恵まれ今なお日本の原風景ともいふべき景観を有する自然豊かな町です。

そして、人の手が加わらない山林などの原生的自然と、人間の営みにより形成・維持されてきた田んぼやため池などの二次的自然が一体となり田園環境が形成され、そこに多様な生態系が成立していることが金ケ崎町における自然環境の大きな特徴となっております。

私たち町民は、それらの自然やそこに生息・生育する生きものから供給される多くの恵みにより、豊かな生活を送ってまいりました。

しかし一方で、ライフスタイルの変化や開発による生きものの生息・生育環境の減少、高齢化や農業人口減少による森林や水田などの管理低下、外来種による従来生態系への影響などにより、里地里山の環境は除々に荒廃し、自然や多くの生きものから受けてきた多くの恵みが今、確実に失われつつあります。

このような状況を踏まえ、金ケ崎町では、多種多様な生きものたちが共存できる環境をつくること、人間が安全に暮らす環境に繋がることに基づき、いわゆる「生物多様性」というものが、人間が生存するために欠かせない基盤であることを強く認識し、第9次町総合発展計画において、5つの重点プロジェクトの一つである「自然保護プロジェクト」としてこれを位置づけ、生物多様性に関する取組みを進めてまいりました。

そして今回、金ケ崎町の豊かな生物多様性を維持・再生させ、その恵みを将来にわたって持続的に享受することが出来る「ずっとこれからも、自然と支えあい共に生きるまち 金ケ崎」の実現を目指し、「生物多様性かねがさき地域戦略」を策定いたしました。

今後はこの戦略に掲げた理念に基づき、金ケ崎町に生息・生育する様々な生きものとそれを支える自然環境、そして町民がそれらと共生する豊かなふるさとづくりを目指し、町民をはじめ民間団体、農林業関係機関、事業者、教育関係機関、国、県、近隣市町村など多様な主体のみなさまと相互に連携し取組んでまいりますので、なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本戦略の策定にあたり、ご尽力いただきました「生物多様性かねがさき地域戦略検討委員会」の委員のみなさまをはじめ、貴重なご意見やご提言をいただきました町民のみなさまや、関係者及び関係機関のみなさまに心から感謝申し上げます。

# 目次

第1章 策定の背景	1
1.1. 生物多様性地域戦略策定の背景	1
1.2. 生物多様性の重要性	2
1.3. 金ヶ崎町で生物多様性の保全と持続可能な利用の推進に取り組む意義	6
1.4. 生物多様性かねがさき地域戦略の位置づけ	7
第2章 金ヶ崎町の生物多様性の現状と課題	8
2.1. 自然環境の状況	8
2.1.1. 植生と土地利用	8
2.1.2. 生きものの生息・生育状況	10
2.2. 町民の意識	11
2.3. 生物多様性に係る課題	13
第3章 戦略の基本的な考え方	16
3.1. 基本理念	16
3.2. 対象区域	16
3.3. 目標年	17
3.4. 目標	17
第4章 具体的な取り組み	19
4.1. 目標1：生物多様性を「知る・学ぶ」	20
4.1.1. 目標 1-1：生物多様性への理解や保全の意識を浸透させる	20
4.1.2. 目標 1-2：生物多様性についての知見の蓄積を図る	21
4.1.3. 目標 1-3：生物多様性の保全と利用に関わる人材の育成を図る	22
4.2. 目標2：生物多様性を「守る・支える」	23
4.2.1. 目標 2-1：生きもののすむ環境の保全・再生を図る	23
4.2.2. 目標 2-2：外来生物等への対策の実施	26
4.3. 目標3：生物多様性を「つなぐ」	29
4.3.1. 目標 3-1：生物多様性の保全と利用に係る活動の広報・啓発	29
4.3.2. 目標 3-2：持続可能な農林業の推進	30
第5章 推進体制	31
5.1. 各主体の役割	31
5.2. 進捗の管理	32
5.2.1. 点検・見直し	32
5.2.2. 進捗状況の公表	32
〈参考資料〉	33

# 第1章 策定の背景

## 1.1. 生物多様性地域戦略策定の背景

生物多様性の保全と持続的な利用については、国際的に、そして国内においても、その重要性が認識され、具体的な取り組みが始まっています。

近年、生物多様性によりもたらされる自然の恵み（生態系サービス）は人類の存続に欠かせないものであることが再認識され、生物多様性保全の意識が国際的に高まっています。国内においても、2010年10月に愛知県名古屋市で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議」において「愛知目標<sup>i</sup>」が採択された後、生物多様性への関心が急速に高まってきています。2008年には「生物多様性基本法」が施行され、2012年には「生物多様性国家戦略 2012-2020」が自然共生社会の実現に向けた具体的戦略として策定されています。

金ヶ崎町においても、2011年度以降のまちづくりの方向性を示した「第9次総合発展計画」の中で「自然保護プロジェクト」を重点プロジェクトの一つとして位置づけ、生物多様性の保全と持続的利用を総合的に推進する方針を掲げました。この「自然保護プロジェクト」の具体的な取り組みとして、自然とどう向きあうかを改めて見直し、今後のまちづくりの考え方や施策のあり方についてまとめた「生物多様性かねがさき地域戦略」を策定することとなりました。



### 金ヶ崎町の位置

<sup>i</sup>愛知目標とは、2050年までに「自然と共生する世界」を実現することをめざし、2020年までに生物多様性の損失を止めるための効果的かつ緊急の行動を実施するという20の個別目標です。

## 1.2. 生物多様性の重要性

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性と、それぞれのつながりのことです。私たちの生活は、生物多様性のもたらす自然の恵みを享受して成り立っています。

地球上の生きものは 40 億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3,000 万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つひとつに個性があり、全てが直接的または間接的に支えあって生きています。

生物多様性には、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という 3 つのレベルがあります。

- **生態系の多様性**：森林、里地里山、河川、湿原、干潟、サンゴ礁などいろいろなタイプの自然があります。  
⇒金ケ崎町にも、ブナ林、スギ植林、コナラ林、牧草地、茅場、水田、ため池、河川、水路など、多種多様な自然（生態系）があります。
- **種の多様性**：動植物から細菌などの微生物にいたるまで、いろいろな生きものがいます。  
⇒金ケ崎町にも、キツネ、アカネズミ、クマタカ、オオジシギ、トウホクサンショウウオ、ゲンジボタル、ブナ、コナラ、ミツガシワ、ミズバショウなど、多くの生きものがすんでいます。そして、キツネはアカネズミを食べ、アカネズミはブナやコナラの実を食べるといったような「食べる－食べられる」の関係、複数の種が相互に関係を持つ「共生」の関係など、多くの生きものはつながりあっています。
- **遺伝子の多様性**：同じ種でも異なる遺伝子を持つことにより、形や模様、生態などに多様な個性があります。  
⇒金ケ崎町でも多く見られるゲンジボタルは日本固有種であり、国内に複数の遺伝子型が存在することが知られています。ゲンジボタルは求愛のために光を発しますが、その発光間隔が金ケ崎町を含む東日本では 4 秒間隔であるのに対して、西日本では 2 秒間隔であり、遺伝子タイプで見るとさらに地方ごとに違いがあります。

「生物多様性センターHP」(<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/>、2014 年 11 月現在)

「遺伝的多様性とは」(環境省自然環境局生物多様性センター、2001 年)を参考に作成

私たちの生活は、生物多様性のもたらす様々な恵みを享受して成り立っています。これらの恵みは「生態系サービス」と呼ばれています。

- **生きものがうみだす大気と水**（基盤サービス）：  
私たちの生存に不可欠な酸素は、多様な植物の光合成により作られたものです。雲の生成や雨を通した水の循環、それに伴う気温・湿度の調整も、植

物の葉からの蒸発散や、森林などが水を蓄える働きが関係しています。

生物多様性は人間を含めた「すべての生命が存立する基盤」を支えています。

⇒金ケ崎町の基幹産業である稲作を中心とする農業や岩手県内有数の工業団地の工業生産を維持するためには、多くの水が必要です。その水は、森林などの水源涵養の働きによりもたらされています。

#### ■ 暮らしの基礎（供給サービス）：

私たちの食卓に並ぶ米、野菜、魚、肉のほか、家屋に使われる材料などは、水田、畑、森林、海などから農林水産業を通してもたらされています。生きものの遺伝的に多様な情報、形態や機能も、私たちの日常生活の必需品として利用されています。

生物多様性は私たちの暮らしを支える「有用な価値」を持っています。

⇒金ケ崎町の食料自給率は県内第一位の285%で（カロリーベース、2005年）、多くの食の恵みをもたらしてくれています。また、「城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区」には茅葺き屋根の建造物がいくつも残っていますが、町内で生産されている茅（ススキ）もその屋根に使われています。



城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区の茅葺き屋根

#### ■ 生きものと文化の多様性（文化的サービス）：

日本の豊かですが荒々しい自然を前に、日本人は自然と対立するのではなく、順応し、多様な文化を形成してきました。それぞれの地域には、漬物、味噌、日本酒など、微生物と食材が織り成す固有の食文化のように、自然と文化が一体となった風土・風習があります。

生物多様性は、私たちの心を支える「豊かな文化の根源」といえます。

⇒金ケ崎町を含む岩手県の代表的な郷土芸能の一つとして、鹿踊があります。シカの頭部を模したお面（シカの角は本物を使用）をかぶり勇壮に踊るもので、この地域の風土に長く根ざしています。また、金ケ崎町の固有の食文化として、「ずるびき」があります。不祝儀の最後に台所支度をした人たちが残り野菜を全部煮て、あんかけ風にして食べたものです。



鹿踊の様子



ずるびき

■ **自然に守られる私たちの暮らし**（調整サービス）：

豊かな森林は、集中豪雨による山崩れ、土石流、地すべりなどの山地災害の防止や土壌の流出防止、安全な飲み水の確保に必要な存在です。

農薬や化学肥料の適正な使用により、土壌微生物など地域土着の様々な生きものの保全が図られ、健全な生態系が持つ病害虫を抑制する機能が発揮されます。また、農作物の結実には、昆虫類による送粉が不可欠なものもあります。

長期的な視点でみると、健全で豊かな生物多様性は「将来にわたる暮らしの安全性」を保証するものといえます。

⇒金ヶ崎町に広がる森林はもちろん、人為的に作り出した水田やため池も、降雨の貯留により洪水を防止しています。また、降雨は地下に浸透し地下水源となり、各所に湧水をもたらしています。地表水は、河川や水路を流れるなかで、植物体に吸収されたり、微生物に浄化されたりして、きれいな飲み水になることができます。ボトルドウォーター「金が咲しずくちゃん」は、このような水を基に作られています。



日本は世界的に生物多様性保全上重要な地域と認識されていますが、今、4つの危機に瀕していると言われています。

■ **第1の危機：開発など人間活動による危機**

人の活動が引き起こす負の要因による生物多様性への影響です。開発による生息地や生育地の減少や環境悪化、生きものの乱獲や盗掘が今も続いています。

■ **第2の危機：自然に対する働きかけの縮小による危機**

第1の危機とは逆に、自然に対する人間の働きかけが縮小撤退することによる影響です。かつては薪や炭、屋根葺きの材料などを得る場であった里山や草原が利用されなくなった結果、人為的な干渉により維持されてきたこれらの環境に多く生息するゲンゴロウやオミナエシなどの生きものが危機に瀕しています。一方で、狩猟者の減少・高齢化で狩猟圧が低下することなどにより、ニホンジカ、イノシシなどが増加し、分布域を拡大することで深刻な農林業被害や生態系への影響が発生しています。

■ **第3の危機：人間により持ち込まれたものによる危機**

人間が持ち込む外来種や化学物質などによる生態系への影響です。国内の他の地域から持ち込まれたものも含め、オオクチバスなどの外来種は、その地域にもとからいた生きものを食べたり、生息・生育場所や食物を奪ったり、交雑して遺伝的な攪乱をもたらすなど、地域固有の生態系を脅かしています。また、化学物質の中には生きものに対して毒性を持つものがあり、生態系に影響を与えています。

■ **第4の危機：地球環境の変化による危機**

地球温暖化など、地球環境の変化による生物多様性への影響です。地球温暖化のほか、大型の台風の頻度が増すことや降水量の変化などの気候変動、海水温の上昇などは生物多様性に深刻な影響を与える可能性があり、その影響は完全には避けることができないと考えられています。

「生物多様性国家戦略 2012-2020」（環境省）を参考に作成

### 1.3. 金ケ崎町で生物多様性の保全と持続可能な利用の推進に取り組む意義

金ケ崎町では、豊かな生物多様性を維持・再生し、その恵みを次の世代に引き継ぐまちづくりをしていきます。

金ケ崎町には、人間の営みにより長い年月をかけて形成・維持されてきた、一般的に里地里山と呼ばれる環境が広がっています。それは、水田、河川・水路、ため池、森林などが一体となり形成された田園環境であり、山から川へと連続した多様で豊かな生態系が成立しています。

農村地帯である金ケ崎町は、生物多様性のもたらす自然の恵みを享受して暮らしてきました。しかし、地域経済の発展を優先した豊かさを求めるあまり、気づかないうちに生物多様性が損なわれる一面もありました。これからは金ケ崎町の豊かな生物多様性を維持・再生し、その恵みを次の世代に引き継ぐまちづくりをしていく必要があります。



田植え直後の水田、遠方には駒ヶ岳を望む



水田地帯と山岳地帯の間にある牧草地



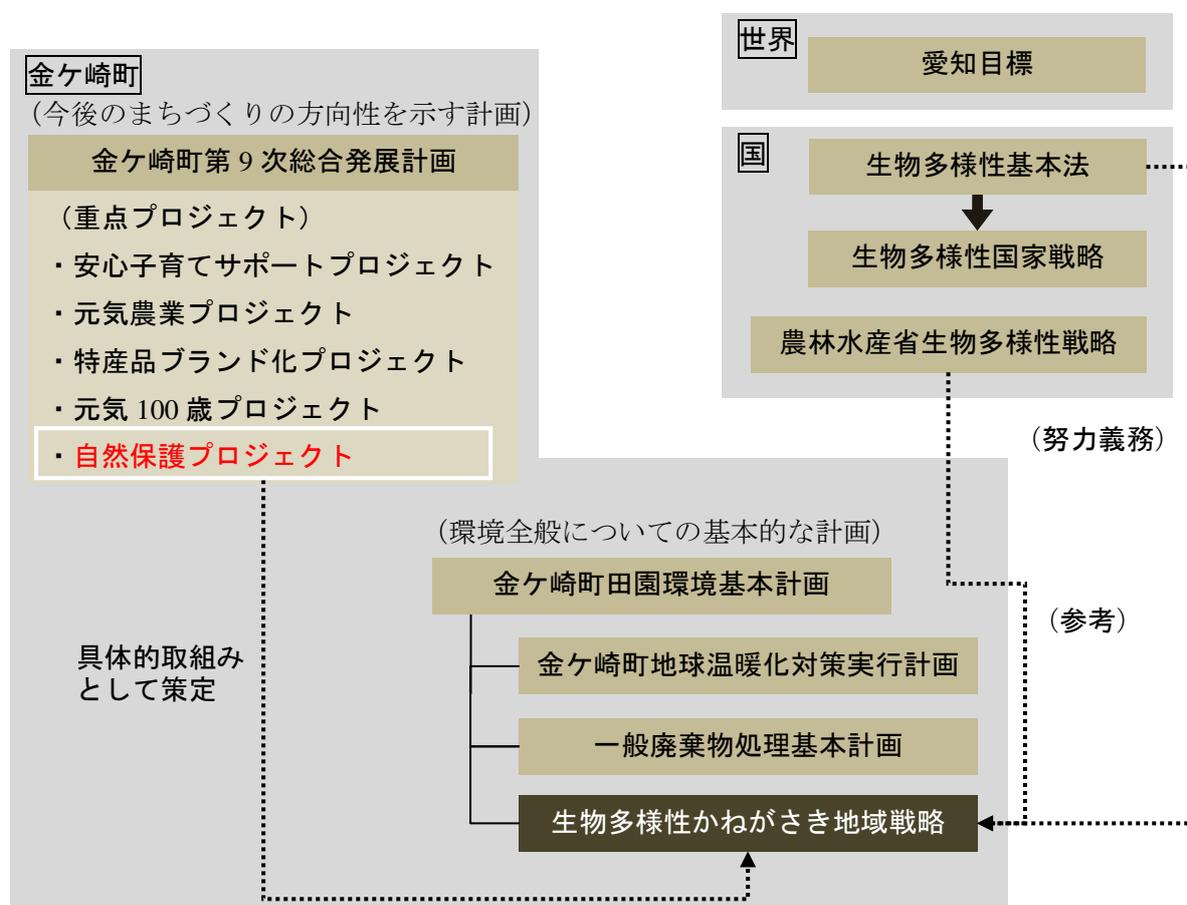
城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区

## 1.4. 生物多様性かねがさき地域戦略の位置づけ

「生物多様性かねがさき地域戦略」は、金ケ崎町田園環境基本計画の理念に基づく個別計画の一つとして策定するものです。

「生物多様性かねがさき地域戦略」は、生物多様性基本法により地方自治体の努力義務とされている「生物多様性地域戦略」として作成するものです。

「生物多様性かねがさき地域戦略」は、金ケ崎町田園環境基本計画<sup>ii</sup>の理念に基づく個別計画の一つとして、生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた取り組みを推進し、生物多様性の危機にも対応しながら自然と共に支えあうまちを目指す基本的かつ総合的な計画として策定するものです。



## 生物多様性かねがさき地域戦略の位置づけ

<sup>ii</sup> 金ケ崎町では、環境に限られた資源であることを深く認識し、町、事業者、町民が相互に協力し合い、人と自然が健全に共生できるまちづくりの実現を目指し、1998年に金ケ崎町田園環境基本条例を制定しています。その条例の趣旨を踏まえ、町行政の「環境政策大綱」となるものが金ケ崎町田園環境基本計画です。

## 第2章 金ヶ崎町の生物多様性の現状と課題

### 2.1. 自然環境の状況

#### 2.1.1. 植生と土地利用

金ヶ崎町は、自然豊かな水と緑の町です。水と緑は、山々はもとより住まいのすぐ近くにもあって、町域のどこでも感じることができます。

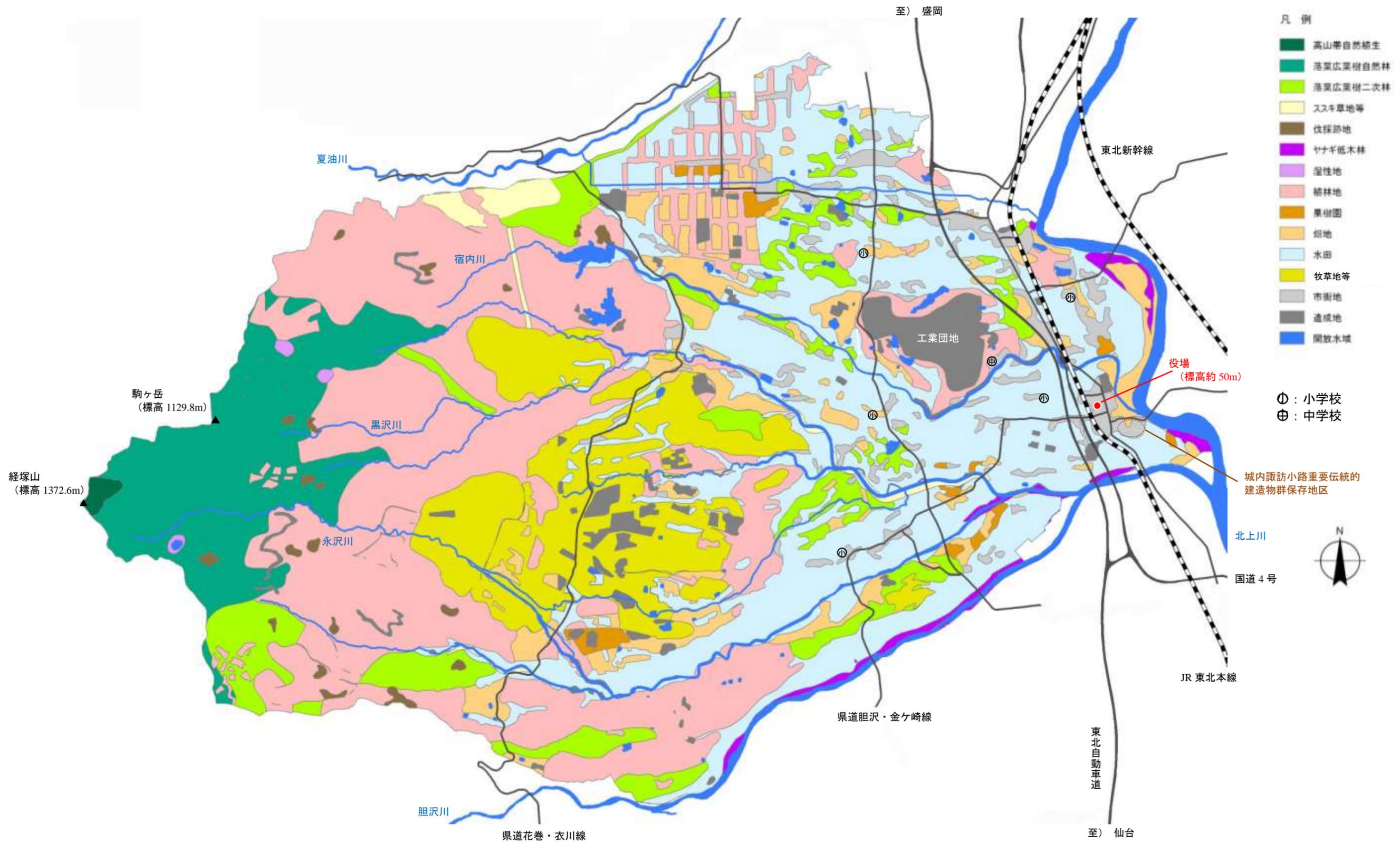
金ヶ崎町は、奥羽山脈に連なる駒ヶ岳の東側の丘陵台地に位置し、西部山岳帯から東に向かうにしたがって平坦地となり、標高差は 1,300m 以上もあります。町の三方は北上川、夏油川、胆沢川の大きな河川に囲まれ、町内には宿内川、黒沢川、永沢川の3本の川が流れています。これらの河川などにより形成された六原扇状地では水利の便が悪いことから、農業利用を目的とした多くのため池が存在し、そこから水路が張り巡らされ、水田につながっています。水田の面積は、町の約 1/4 を占めます。

気候は太平洋側気候に属するものの、日本海側の気候に影響を受け、多くの積雪があります。特に町内の北部と西北部は積雪量が多く、冬季は風も強い特徴があります。

町の西部にある標高 1,373m の経塚山の山頂付近は高山帯自然植生となっており、山麓には自然度の高いブナ林が成立しています。その下には、スギやアカマツなどの植林が広く分布し、水田地帯にはコナラ林などの二次林がモザイク状に広がっています。水田環境と森林環境との間に広く分布する牧草地のほか、ゴルフ場、茅場、工業団地など、多様な環境が存在します。

金ヶ崎町は近世期には仙台藩（伊達領）の最北防衛拠点として要害が置かれた歴史を持ち、当時の建造物群や地割が「城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区」として往時のすがたを遺しています。ここには、エグネと呼ばれるスギの屋敷林をはじめ、様々な樹木が植えられています。

基幹産業は、平坦地域の水稲と丘陵地の酪農を中心とした農業ですが、山間部の林業のほか、トヨタ自動車東日本（株）、塩野義製薬（株）、デンソー岩手（株）などの企業が立地している工業団地を有し、工業の発展も目覚ましい状況です。



注：「自然環境保全基礎調査」（環境省）を参考に作成。

金ヶ崎町の環境類型区分図

## 2.1.2. 生きものの生息・生育状況

金ケ崎町内には、数多くの動物や植物が生息・生育しています。その中には、後世に残したい群落、群生地、希少種が数多く見られます。

本戦略策定にあたって実施した調査結果や既存の資料などから、金ケ崎町で生息・生育する動植物として、哺乳類 15 種、鳥類 134 種、両生類と爬虫類 17 種、魚類 24 種、昆虫類 529 種、淡水産貝類 16 種、植物 762 種が確認されました。

これらの中にはブナ林などの森林環境にすむクマタカ、二次林にすむオオタカやフクロウ、ため池や水路にはキンブナ、タナゴ、ギバチなどの魚類、カワシンジュガイ、イシガイ、ヨコハマシジラガイなどの貝類、ゲンゴロウ、タイコウチ、オオムラサキなどの昆虫類など、希少種も少なくありません。なかでも、町内 16 ヶ所の河川や用水路で確認されたカワシンジュガイは、金ケ崎町の自然度の高さを象徴する生き物の一つです。

植物についても、草地にはオミナエシ、スギ植林にはトンボソウなど、多くの希少種が確認されています。

春になると丘陵地域に広がる牧草地にはるばるオーストラリアからやってくるオオジシギが、冬には各地のため池に飛来する多数のハクチョウ類やカモ類が見られます。

ただし、まだ町内の動植物の生息・生育状況は十分に把握されておらず、今後多くの動植物が確認される可能性があります。



キツネ



クマタカ



ミツガシワ



オミナエシ



モリアオガエルの卵

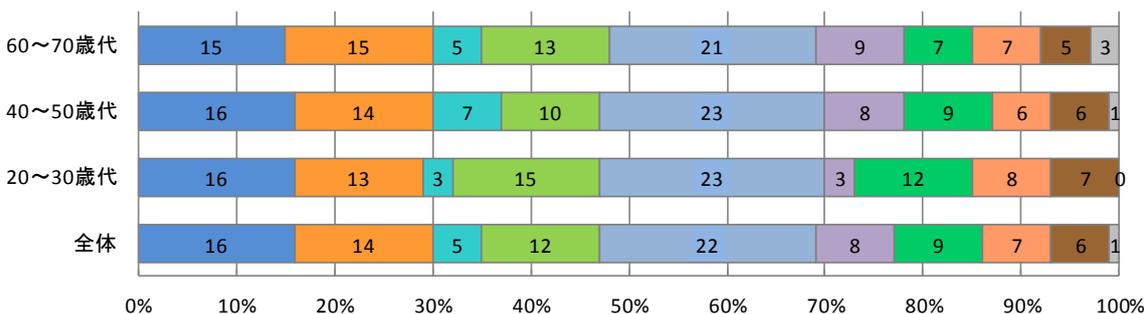
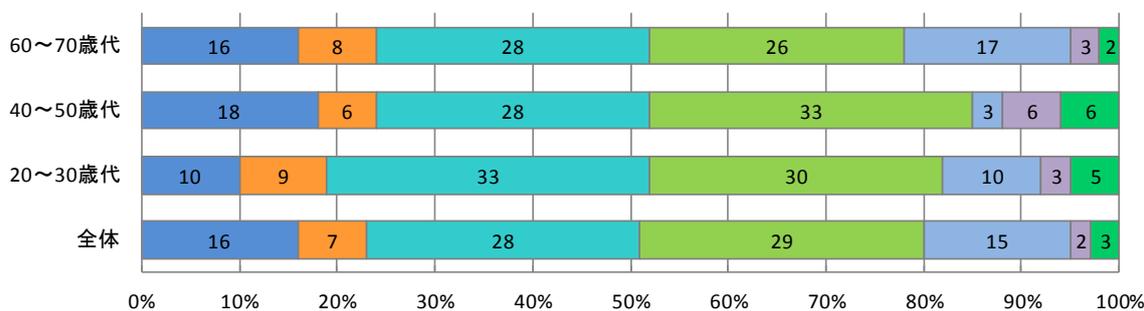


ミヤマカワトンボ

## 2.2. 町民の意識

町民の生物多様性に対する関心は高く、危機的な意識を持っている人が多いことが明らかとなりました。

2012年に計1,137人（回収率：37.3%）を対象に実施した生物多様性に関する意識調査から、町民の生物多様性に対する関心は高く、危機的な意識を持っている人が多いことが明らかとなりました。また、後世に残したい自然としては、ブナ林などの自然度の高い奥山よりも、里地里山など、人との関わりが大きい身近な環境を上げる人の割合が高い傾向が分かりました。



意識調査結果の一例（2012年実施）

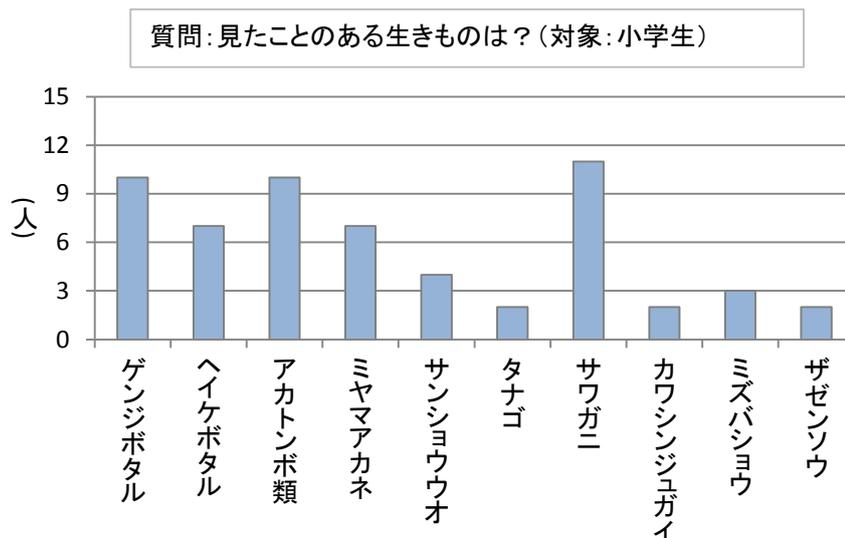
## 生物多様性についての町民アンケート結果の一例

質問：生物多様性や自然環境について、将来こうなればよいと思うことはどのようなことですか。

- ・ 金ケ崎町はとても住みやすい町だと思います。その理由として、宅地や施設、道路はある程度整備されていて、なおかつ自然も豊かで田園風景も広がるという、便利さと自然環境が共存できているからだと思います。社会資源が不足する部分は補いつつも、現状を維持もしくは自然環境を保全して、緑も多い水もきれい、動植物も元気な金ケ崎であって欲しいです。
- ・ 60～80代の人が「昔はこうだったよ」という自然環境をよみがえらせ保全していく。
- ・ 田畑がどんどん荒地や宅地になっていくのを見るのは寂しい。田園風景があってこそその金ケ崎だと思うので、農業振興をまずやって欲しい。それに伴って身の回りの生物も守ることができるのではと思う。
- ・ 毎年夕食後、孫達と田んぼに出て、ホタル観察をしていましたが、今年は2～3匹しか見られず残念でした。ホタルの群生を見られるところを作ってもらい、観察会などあるとうれしいですね。
- ・ 生物を守るの大切なことですが、森全体、自然環境、むかしの状態に戻す努力、例えば海拔800m付近まで植林地を広葉樹林に戻す作業が最も大切だと思います。
- ・ 自分が生活していくうえでの余裕がないため、生物多様性や自然環境について深く考えたことがありません。今後意識していきたいと思います。

【引用文献】「生物多様性についてのアンケート結果報告書」（2012年、金ケ崎町）

また、2014年に開催した自然観察会に参加した小学生の意見から、子供たちは自然と触れ合う機会が少なく、身近な生きものを知らないことを示唆する結果が得られました。一方で、参加した子供の多くは自然観察会を楽しみ、生物多様性への理解を深めたと思われまます。



自然観察会に参加した小学生へのアンケート結果（2014年実施）

## 2.3. 生物多様性に係る課題

金ヶ崎町の生物多様性を保全し、持続的に利用するためには、大きく5つの課題があります。

### ① 耕作放棄・管理方法の変化などにより生物多様性が失われつつある田園環境

金ヶ崎町の代表的な環境である田園環境は、一般的には生物多様性の高い環境といわれています。町内には環境に配慮した農業を推進する動きもあるものの、その取り組みはまだ一部です。全町的には水田の乾田化などの農業形態の変化や農業従事者の減少・高齢化による耕作管理の不十分な状況が目立っています。また、ため池や水路の形態や管理方法についても、ため池の定期的な池干しの不徹底、水路の三面張りや暗渠化に見られるように、田園環境は大きく変化しました。田園環境における生物多様性の低下や変質が進行しつつあります。

### ② 外来種等の侵入・定着

町内には、在来の生きものの生息生育の脅威となるといわれる外来種が確認されています。法律により飼育などが禁止されている外来種としては、オオクチバスが複数のため池に生息し、アレチウリ・オオキンケイギク・オオハンゴンソウが平坦地に点在し、ボタンウキクサが局所的に生育しています。また、総合的に対策が必要とされている外来種であるセイタカアワダチソウ<sup>iii</sup>も広く分布しています。

近年は、カワウや外来種のハクビシンが定着・繁殖し、これらは毎年有害駆除により一定数が捕獲されていますが、生物多様性や農林業への被害が懸念されています。また、岩手県内で生息分布が急速に拡大しているニホンジカやイノシシは、現時点で町内に定着している可能性は低いものの、近い将来定着する可能性が高いと考えられています。

### ③ 水田環境以外の自然への関心の不足

金ヶ崎町の大半はため池や水路を伴った水田環境で占められていますが、広い町内にはその他にも、高山植生、自然度の高いブナ林、コナラなどの二次林、スギ植林、ススキ草原、屋敷林など、多様な自然が見られます。

しかし、これらの自然に対する町民の関心は比較的低く、多様な自然への関心を高めていく必要があります。

<sup>iii</sup> 「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（案）」（環境省・農林水産省）において、重点対策外来種の1種とされています。

#### ④ 生物多様性に係る基礎資料の不足

本戦略策定にあたり実施した調査などから、金ケ崎町内にすむ生きものの現状は明らかになりつつありますが、全体像は把握されていません。生物多様性を保全し、持続的な利用を総合的に推進に係る施策を検討・実行するための基礎資料は十分とは言えない状況です。

また、町内に生息・生育することが明らかとなった希少な生きものの保全や再生のための現状の把握もまだ十分とは言えません。

#### ⑤ 生態系サービスを生かす知恵と技術の消失の危機

金ケ崎町には、身近な材料を使ってさまざまな道具を作り出し、生活に便利さとうるおいをもたらしてきた様々な技法や道具があります。金ケ崎町ではこれらの技法や道具を地域特有の文化遺産として後世に伝えていくことを目的として伝承技芸名人位・達人位を創設し、昭和 61 年から表彰しています。これまでに表彰したものとしては、屋敷ぼうきや漬物などの身近な文化遺産が数多くあります。その代表的な一例としては、漬物の「すがっこづくり」があります。「すがっこ」とは薄氷のことで、すがっこづくりは野菜をマイナス 1℃の薄氷ができる保冷室で漬け込み、寝かせて作った漬物です。しかしながら自然の恵みを生かす知恵が時代の流れを反映して消失しつつあり、これを危惧する意識が高まっていることが全町アンケートをみても明らかとなっています。その知恵と技術を有する町民の多くは高齢化し、その伝承と実践を図るための対策が必要です。

## 外来種について

一口に外来種と言っても、本来の分布域が日本ではない生物種である「国外由来の外来種」と、日本にも分布しますが、その自然分布域を越えて国内の他地域に導入された生物種である「国内由来の外来種」とに分けられます。

たとえば金ヶ崎町で見られる魚も、オオクチバスは本来北米にすむ魚で「国外由来の外来種」であり、モツゴは本来関東地方以西にすむ魚で「国内由来の外来種」です。

## 金ヶ崎町でみられる生態系などへの影響が大きいとされる外来種

### 【オオクチバス】

オオクチバスは、コクチバスとの総称ではブラックバスとも呼ばれています。両種とも北アメリカを原産とする肉食性魚類で、魚類や甲殻類のほか、水生生物などを捕食します。ブラックバスの侵入により、在来魚の激減などの影響が全国各地で報告されています。



オオクチバス

### 【アレチウリ】

北アメリカを原産とするつる性の1年生草本です。つるを伸ばして一面を覆うように繁茂するため、他の植物に届く光を遮ってその生育を阻害します。つるや葉は細かいトゲに覆われており、触ると痛いのです。



アレチウリ

### 【オオハンゴンソウ・オオキンケイギク】

北アメリカを原産とする多年生草本です。大きな群落を形成することがあり、他の植物に届く光を遮って生育を阻害します。夏～秋に黄色い目立つ花をつけることから、観賞用として持ち込まれたものが野外に逃げ出し定着しています。



オオハンゴンソウ

### 【セイタカアワダチソウ】

北アメリカを原産とする多年生草本です。大きな群落を形成することがあり、他の植物に届く光を遮って生育を阻害します。秋に、黄色い目立つ花をつけることから、観賞用として持ち込まれたものが野外に逃げ出し定着しています。



オオキンケイギク

### 【ボタンウキクサ】

アフリカを原産とする浮遊性の水生植物で、水面を覆うように繁茂し、水生生物の生息環境を悪化させるといわれます。寒さに弱いため、北東北地方では大きく繁茂している箇所は知られていません。



セイタカアワダチソウ



ボタンウキクサ

【参考】「河川における外来植物対策の手引き」(2013年、国土交通省河川環境課)

## 第3章 戦略の基本的な考え方

### 3.1. 基本理念

金ケ崎町は、山と川に囲まれた自然豊かな水と緑の町です。農村地帯である本町は、これまで生物多様性のもたらす生態系サービスを大いに享受して暮らしてきました。しかし、地域経済の発展を優先した豊かさを求めるあまり、気づかないうちに生物多様性を損なったという一面もあります。金ケ崎町の豊かな生物多様性を維持・再生し、その恵みを次の世代に引き継ぐまちづくりをしていく必要があります。町民、土地改良区や森林組合などの農林業の関係者、民間団体、教育関係者、企業などの事業者、町などの多くの関係主体が共有すべき考え方として、以下の基本理念を掲げます。

**ずっとこれからも、自然と支えあい共に生きるまち 金ケ崎**

### 3.2. 対象区域

「生物多様性かねがさき地域戦略」は、基本的に金ケ崎町を対象区域とします。必要に応じて、隣接する自治体等と連携を図り、金ケ崎町周辺の地域も対象とします。

収穫を待つ水田



城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区



水田地帯に点在する屋敷林（エグネ）

### 3.3. 目標年

生物の移動や定着、生態系の変化や回復には、数十年またはそれ以上の長い時間を要することや、「生物多様性国家戦略 2012-2020」の長期目標年が 2050 年であることなどを考慮し、「生物多様性かねがさき地域戦略」では、長期的な目指すべき社会のすがたの目標年を 2050 年とします。

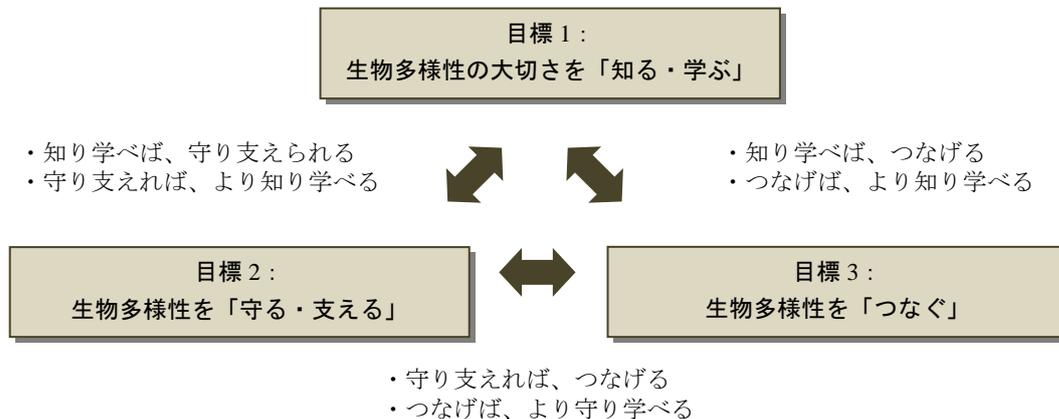
一方、短期的に取り組む行動計画としては、10 年後の 2025 年を短期目標年とします。ただし、開始から 5 年を目処に中間点検を行い必要に応じて行動計画などの見直しを行います。

長期目標：2050 年

短期目標：2025 年

### 3.4. 目標

基本理念を基に施策を展開するにあたって、3 つの目標を設定します。



#### 「生物多様性国家戦略 2012-2020」における目標

「生物多様性国家戦略 2012-2020」では、以下の目標を掲げています。

・長期目標（2050 年）：

生物多様性の維持・回復と持続可能な利用を通じて、日本の生物多様性の状態を現状以上に豊かなものとするとともに、生態系サービスを将来にわたって享受できる自然共生社会を実現する。

・短期目標（2020 年）：

生物多様性の損失を止めるために、愛知目標の達成に向けた日本における国別目標の達成を目指し、効果的かつ緊急な行動を実施する。

## 2050年の金ケ崎町のすがた

金ケ崎町では、「生物多様性国家戦略 2012-2020」などを参考に、長期目標の時期を35年後の2050年としました。2050年の金ケ崎町のすがたを現時点で予測することは難しいですが、国土交通省では未来を切り開いていくための国土づくりの理念・考え方として「国土のグランドデザイン 2050～対流促進型国土の形成～」を作成しています。そこでは、参考資料として2050年の人口予測がされており、全国的な傾向と同様に金ケ崎町も人口は減少するとされており、町のすがたは現在と大きく変わる可能性があります。この人口減少は金ケ崎の生物多様性の観点からも、大きな問題の一つです。

35年程前の日本を振り返ると、この時代は環境といえば、いわゆる大気汚染や富栄養化による水質汚濁などの公害が大きく問題視されていた時代であり、生きものの保全への認識は比較的低いものでした。当時に問題となっていた公害は、現在では当たり前に対応すべきこととして認識されており、この35年間で環境に対する認識は大きく変わりました。これからの35年で、基本理念のような町を実現することは可能であり、金ケ崎町は、そのための第一歩を踏み出そうとしています。2050年はまだ少し先のことのようにですが、生物多様性かねがき地域戦略の掲げる基本理念の実現は、小さな取り組みの積み重ねにより可能となります。

## 第4章 具体的な取り組み

具体的な取り組みの一覧は、以下のとおりです。

目標	個別目標	具体的な取り組み	関係主体
目標 1 : 生物多様性の 大切さを「知 る・学ぶ」	目標 1-1 : 生物多様性への理解や保全 の意識を浸透させる	金ヶ崎町環境推進大会の開催・ 参加	町、町民、事業者
		自然観察会の開催	町、町民
		間伐・枝打ち体験学習会の開催	町、町民、森林組合、 林業従事者
		こどもエコクラブの普及推進	町、町民
		地元食材を利用した給食の推進	町
	目標 1-2 : 生物多様性についての知見 の蓄積を図る	町民参加型生きもの調査の展開	町、町民
		自然環境調査の実施	町
	目標 1-3 : 生物多様性の保全と利用に 関わる人材の育成を図る	講習会等の開催・参加促進	町、町民
		金ヶ崎町学校環境 ISO への生物多様性に 関わる項目の追加と実施の推進	町
目標 2 : 生物多様性を 「守る・支え る」	目標 2-1 : 生きもののすむ環境の保 全・再生を図る	地区のお宝の保全活動の推進	金ヶ崎町生物多様性 地域連絡協議会、町、 町民
		ため池や水路の保全	町、土地改良区、町民
		貴重な動植物の保全	町、町民
		アドバイザー派遣要請等相談窓口の開設	町
		環境に配慮した公共工事の実施	町、事業者
		目標 2-2 : 外来生物等への対策の実施	オオクチバスの監視・駆除
		アレチウリ・オオハンゴンソウ・オオキン ケイギク・ポタンウキクサ・セイタカアワ ダチソウの監視・分布拡大抑制	町、町民、事業者
		有害鳥獣の監視・駆除	町、町民
		松くい虫対策	町、森林組合、町民
目標 3 : 生物多様性を 「つなぐ」	目標 3-1 : 生物多様性の保全と利用に 係る活動の広報・啓発	優れた取り組みへの表彰制度	町
		生物多様性の保全と利用に係る取り組み の発信	町、町民、事業者
		他の自治体との連携や交流	町
	目標 3-2 : 持続可能な農林業の推進	生物多様性に配慮した事業活動の推進	町、事業者
		アドプト協定の推進	町、土地改良区、町民
		環境保全型農業の推進	町、JA 岩手ふるさと、 農業従事者
	生物多様性保全に配慮した森林整備（民 有林）の推進	町、森林組合、 林業従事者	

#### 4.1. 目標 1：生物多様性を「知る・学ぶ」

##### 4.1.1. 目標 1-1：生物多様性への理解や保全の意識を浸透させる

- **金ヶ崎町環境推進大会の開催・参加**：町（生活環境課）、町民、事業者；**重点施策**

1年に1回開催される金ヶ崎町環境推進大会において、様々な関係主体による生物多様性の保全活動の取り組みについて紹介し、生物多様性への理解や保全の意識浸透を図ります。

なお、これまでの大会において地球温暖化に対する活動報告などもされてきました。生物多様性は4つの危機に瀕していると言われており、地球温暖化を含む地球環境の変化は、その1つです。



金ヶ崎町環境推進大会の様子（左）とそこでの子供たちの発表の様子（左）

- **自然観察会の開催**：町（生活環境課、中央生涯教育センター、各地区生涯教育センター、小中学校、幼稚園）、町民；**重点施策**

子供や町民を対象とした自然観察会を定期的で開催します。この観察会を通して、金ヶ崎町の多様で豊かな自然について、関心と理解を深めてもらうことを目的とします。

短期目標年の2025年度までに、2014年度時点の町内における小学生の半数にあたる延べ600人の参加を目指します。



2014年度に実施した自然観察会の様子

- **間伐・枝打ち体験学習会の開催**：町（農林課、小中学校、中央生涯教育センター、各地区生涯教育センター）、町民、森林組合、林業従事者

持続可能な林業への理解を深めるため、子供を対象とした間伐や枝打ちなどの林業施業に関する体験学習会を定期的で開催します。

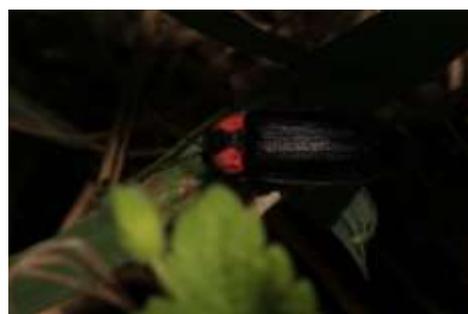
- **こどもエコクラブの普及推進**：町（生活環境課、小中学校、幼稚園）、町民  
こどもエコクラブとは、幼児（3歳）から高校生までなら誰でも参加できる環境活動のクラブです。子供たちの環境保全活動や環境学習を支援することにより、子供たちが人と環境の関わりについて深く幅広く理解することを目指します。さらに、自然を大切に思う心や、環境問題解決のために自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることを目的としています。  
このこどもエコクラブの普及推進や活動支援を行い、登録団体の増加を図ります。2014年度時点では金ケ崎町内において2団体が登録されていますが、5団体以上の登録を目指します。
- **地元食材を利用した給食の推進**：町（給食センター、小中学校）  
金ケ崎町においてとれた食材を利用した小中学校の給食を推進します。2007年度から始めた金ケ崎町産の食材のみを用いた「町内産食材100%給食」の日を今後も年間3回程度設定するとともに、積極的な金ケ崎町産食材の利用を推進します。



金ケ崎町内産食材100%給食の日の様子（2014年度）

#### 4.1.2. 目標 1-2：生物多様性についての知見の蓄積を図る

- **町民参加型生きもの調査の展開**：町（生活環境課）、町民；**重点施策**  
町民参加による身近な生きもの調査を実施し、年度ごとに得られた調査結果は、今後の保全活動や外来種の駆除活動の基礎資料として活用します。調査対象は、ホタル類、タンポポ類、セイタカアワダチソウなど、身近でよく知られた種とし、年度毎に種を選定していきます。  
この調査については、2015年度に調査対象や調査手法について検討し、2016年度からの実施を目指します。



ゲンジボタル（左）とヘイケボタル（右）

- **自然環境調査の実施**：町（生活環境課）

金ケ崎町における動植物の生息生育状況を総合的に把握するために、より専門的な調査の実施を検討します。

#### 4.1.3. 目標 1-3：生物多様性の保全と利用に関わる人材の育成を図る

- **講習会等の開催・参加促進**：町（生活環境課）、町民

生物多様性について理解し、主体的に活動をする人材の育成を図るため、生物多様性に関する講習会を開催するとともに、積極的に様々な講習会などへの参加を呼びかけます。

- **金ケ崎町学校環境 ISO への生物多様性に関わる項目の追加と実施の推進**：町（生活環境課、教育委員会、小中学校）

金ケ崎町の小中学校で取り組んでいる金ケ崎町学校環境 ISO の実施項目に生物多様性に関わる事項を追加し、子供たちの生物多様性への理解を深めていきます。

生物多様性に関する追加項目は 2015 年度に検討し、2016 年度からの施行を目指します。

#### 金ケ崎町学校環境 ISO

「金ケ崎町学校環境 ISO」とは、小中学校における環境教育の一環として、環境にやさしい学校づくりにむけて金ケ崎町で独自に定めた制度です。以下に定めた実施項目のうち 4 項目以上を 3 ヶ月以上実施することを求めています。実施項目は、学校ごとに選択することとなっています。

環境区分	児童生徒の実施項目
(1) 省エネルギー	(1) 照明のスイッチをこまめに切ります。
	(2) 暖房時の教室が暑いとき、こまめにスイッチを切り、省エネに努めます。
(2) 省資源	(3) 紙の使用を減らし、再生紙を使用します。
	(4) 物を大切に使用します。(鉛筆、消しゴム、ノート、定規など)
(3) リサイクル	(5) 町の分別収集ルールにしたがって、リサイクルを進めます。
	(6) 給食の残飯はきちんと片付け、リサイクルします。
(4) 節水・水環境	(7) 手洗い、歯磨き、清掃時の水を節約します。
	(8) プール、グラウンドなどでの水を節約します。
	(9) 清掃時の洗剤の使用を減らします。
	(10) 河川の水生生物などを調査し、地域の環境を考えます。
(5) 環境保全	(11) 校舎、校庭などの美化作業に努めます。
	(12) 環境に関する活動などに参加します。
	(13) 環境について学習します。
	(14) 学校での環境への取り組みを家庭に伝えます。
(6) その他環境にやさしいこと	(15) 環境にやさしいことで、町長が認めたもの。

## 4.2. 目標 2：生物多様性を「守る・支える」

### 4.2.1. 目標 2-1：生きもののすむ環境の保全・再生を図る

- **地区のお宝の保全活動の推進**：金ケ崎町生物多様性地域連絡協議会、町（生活環境課、中央生涯教育センター、各地区生涯教育センター）、町民；**重点施策**  
金ケ崎町では、自治会を単位とした「2011 年度から 2015 年度の地域づくり計画」を策定しており、その中で将来に残したい資源として生物多様性に関わりのある事項を挙げて計画を掲載している自治会があります。この自治会を中心に「金ケ崎町生物多様性地域連絡協議会」が組織されており、協議会に参加している地区を中心に、地区のお宝としている生きものの保全活動を促します。  
2015 年度に自治会ごとに具体的な活動計画を策定し、2016 年度から順次活動を展開することを目指します。

#### 「金ケ崎町生物多様性地域連絡協議会」に参加している自治会

2015 年時点で、「金ケ崎町生物多様性地域連絡協議会」に参加している自治会とその自治会が将来に残したい資源として上げたものは、以下のとおりです。

- ・ 上の町地区：サンショウウオ類、エビ類、ホタル類など
- ・ 穴持地区：ザゼンソウ
- ・ 二日町地区：サンショウウオ類、ホタル類
- ・ 金森地区：ゲンジボタル
- ・ 上平沢地区：ホタル類
- ・ 長志田地区：ミズバショウ
- ・ 谷地上地区：里山や田園風景のある自然
- ・ 御免地区：淡水貝など
- ・ 横道上地区：ホタル類、タニシ類
- ・ 藤巻地区：ホタル類
- ・ 上永沢第二地区：サワガニなど
- ・ 上・下百岡地区：親水空間
- ・ 上・下永徳寺地区：ミズバショウ

● **ため池や水路の保全**：町（農林課、生活環境課）、土地改良区、町民

金ケ崎町において多様な生きものがすむ代表的な環境の一つであるため池や水路について、その重要性を積極的に広報するとともに、多面的機能支払制度の活用などにより、管理者にはその保全に協力を求めています。

現時点で重点的に保全を図るため池としては、平溜池、穴持溜池、頭無溜池、雲南溜池、吉田沢溜池、苦木沢溜池、女夫坂溜池が、水路としては、原用水路、西根前野地内や広本周辺などの用水路があります。なお、その他のため池についても同様に保全を図ります。



頭無溜池



原用水路

**ため池や水路以外の環境の保全について**

金ケ崎町には、ため池や水路以外にも多様な環境が存在しており、ため池や水路だけを保全すれば金ケ崎町の生物多様性が保全されるわけではありません。しかし、ため池や水路は、金ケ崎町における代表的で、多くの町民が身近に感じる環境です。このため、金ケ崎町の生物多様性の保全上最も重要な環境と位置づけ、先進的、重点的に保全する環境として、生物多様性かねがさき地域戦略に掲載することとしました。

高山帯植生、自然度の高いブナ林、コナラ林などの二次林、牧草地や茅場などの草地、エグネと呼ばれる屋敷林なども生物多様性保全上重要であり、保全を図っていく必要があります。なお、適した保全の手法は環境により異なり、高山帯植生や自然度の高いブナ林などは人為的影響を極力避けてなもしないことが望ましく、二次林や草地は定期的な人為的干渉が必須で管理をすることが重要です。

● **貴重な動植物の保全**：町（生活環境課、中央生涯教育センター）、町民

環境省や岩手県のレッドリストやレッドデータブック<sup>iv</sup>などに掲載されている絶滅のおそれのあるとされている希少性の高い種や金ケ崎町の自然環境を代表する生きものについては、生息生育環境の保全を行います。その代表としては、希少性の高いカワシンジュガイや金ケ崎町の自然度の高さを象徴するタナゴの生息地、ミズバショウやザゼンソウの生育地などが考えられます。



タナゴ



カワシンジュガイ

**タナゴと二枚貝の不思議な関係**

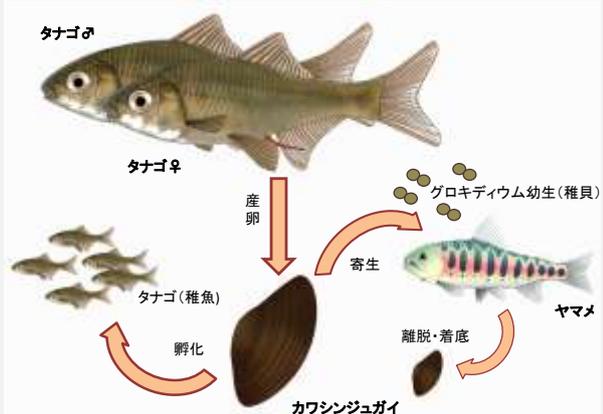
タナゴの仲間は、興味深い生態を持つことで知られています。タナゴの仲間は、卵を生きた二枚貝の中に産み付けなければなりません。また、二枚貝の幼生（子供）はしばらくの間は、ヨシノボリ類などの魚に寄生しなければ生きていけません。つまり、タナゴが生きるためには、二枚貝が必要であり、その二枚貝が生きるためには、ヨシノボリ類などの魚が必要なのです。

金ケ崎町で確認されたタナゴは、主にカワシンジュガイに産卵していることが確認されています。このカワシンジュガイはヤマメに寄生しています。

ちなみに、カワシンジュガイの寿命は最大 150 年とされています。このため、カワシンジュガイが確認された場所でも、環境悪化などのために現在は繁殖しておらず老齢の個体が生き残るのみの状態になっている箇所もあると言われますが、金ケ崎町には繁殖していることが確認されている場所も残されています。

【参考文献】「レッドデータブック 2014 —日本の絶滅のおそれのある野生生物— 6 貝類」（環境省）

「和賀川水系及び胆沢川水系からのカワシンジュガイの記録」（佐竹・菊池、北上市立博物館研究報告第 17 号、2009 年）



<sup>iv</sup> 絶滅のおそれのある野生生物のリストをレッドリスト、それを基に掲載種の生態や具体的な内容をまとめたデータブックをレッドデータブックと呼ばれています。内容は定期的に見直しされており、これまでに環境省は 3 回、岩手県は 1 回の改定を行っています。世界で初めて作られたものが、危険を示す赤色の用紙に印刷されたことから、レッドデータブックと呼ばれるようになりました。

- **アドバイザー派遣要請等相談窓口の開設**：町（生活環境課）

金ケ崎町生物多様性地域連絡協議会や町民などが、生物多様性に配慮した適切な取り組みを行うにあたって、専門的な立場からの助言は重要です。このため、その専門的な助言を求める主体からの要望を受け付け、その要望に適した専門的な知識を有する生きものアドバイザーを派遣するための窓口を開設します。

2015年度に生きものアドバイザーのリストを作成するとともに、生きものアドバイザー派遣の要望を受け付けます。

- **環境に配慮した公共工事の実施**：町（農林課、建設課）、事業者

町発注の公共工事では、事業者にも生物多様性への配慮を求めます。濁水の発生抑制、植栽における郷土種の活用、生物多様性に配慮した材料の使用、希少な生きものを発見した際の速やかな報告と影響低減・回避策の検討・実施などが考えられます。

町発注の公共工事を実施するにあたり ISO 自己適合宣言に基づき定めた「公共工事実施手順書」について、2015年度に生物多様性保全の観点を含めた改定を検討し、2016年度からの施行を目指します。

#### 4.2.2. 目標 2-2：外来生物等への対策の実施

- **オオクチバスの監視・駆除**：町（農林課、建設課、生活環境課）、土地改良区、町民；**重点施策**

ため池 45 箇所、水路や河川 38 箇所を調査した結果、特定外来生物であるオオクチバスの生息が、ため池 8 箇所を確認されました。オオクチバスは金ケ崎町において生息しているものの、全域的に生息しているわけではなく、生息場所はまだ限られているといえます。

今後は、分布拡大を監視するとともに、すでに生息・定着している箇所については駆除を行います。2015年度より、1年に1箇所以上のため池で池干しなどを行い、オオクチバスを駆除していきます。

- **アレチウリ・オオハンゴンソウ・オオキンケイギク・ボタンウキクサ・セイタカアワダチソウの監視・分布拡大抑制**：町（生活環境課、建設課、農林課）、町民、事業者

特定外来生物のアレチウリ、オオハンゴンソウ、オオキンケイギク、ボタンウキクサ、重点対策外来種であるセイタカアワダチソウはすでに町内に分布・定着していますが、更なる分布拡大を抑制するため、積極的な草刈などの駆除の促進を図ります。衛生週間などにおいて草刈を実施する際には、積極的に当該種の刈り取りを促します。ただし、刈り取り方法を誤ると他の外来種を含めより外来種を繁茂させてしまう可能性もあるため、適切な刈り取り方法の周知を図ります。

- **有害鳥獣の監視・駆除**：町（農林課、生活環境課）、町民

生物多様性や農林業への被害が懸念されるカワウやハクビシンなどの有害鳥獣について、生息状況を監視するとともに猟友会の協力を得て必要に応じて駆除を行います。

また、岩手県内で生息が急速に分布拡大しているニホンジカやイノシシについても、町内への定着の有無について森林組合などから情報収集を進めるとともに、必要に応じて駆除を行います。

#### 金ケ崎町におけるニホンジカとイノシシ

ニホンジカは、岩手県では五葉山周辺を中心に以前から生息することが知られていましたが、近年は五葉山周辺にとどまらず岩手県内全域に急激に生息地を拡大していることが知られています。金ケ崎町においても、2013年2月時点で、2012年度に目撃例があります。

イノシシは、岩手県においては2007年に県南の奥州市で県内初の目撃情報があり、2011年には一関市で県内初の捕獲が行われています。その後、捕獲や目撃などの情報が相次いでおり、目撃情報は盛岡市まで及んでいます。まだ金ケ崎町では目撃情報はありますが、周辺自治体では情報があり、金ケ崎町内での目撃されるのも時間の問題とされます。

※目撃情報は、岩手県 HP (<http://www.pref.iwate.jp/index.html>、2015年1月現在) に基づく。

#### 初記録年度

紫:H19,黄:H23,緑:H24,青:H25



岩手県におけるイノシシの目撃などの情報分布

- **松くい虫対策**：町（農林課、生活環境課）、森林組合、町民

管理者及び所有者による薬剤散布などの予防対策を推進し、感染の拡大防止に努めます。また、感染が確認された場合には、管理者及び所有者が適切に駆除、被害木の処理を行うよう努めます。



松枯れの様子

## 金ケ崎町において確認された生物多様性の脅威となるその他の外来種等

生物多様性の脅威となる、またはその可能性のある外来種として、金ケ崎町において、以下の生きものが確認されています。

### 【アメリカザリガニ】

アメリカ原産ですが、現在では日本各地に定着・生息しています。金ケ崎町でも、ため池や水路など多様な水域に侵入して繁殖しています。雑食であり、藻類、水草、小魚、オタマジャクシ、水生昆虫、動物の死骸など何でも食べるため、アメリカザリガニが侵入した水域では生きものが少なくなります。「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（案）」では、特定外来生物であるオオクチバスと同様に、対策の緊急性が高いとされる緊急対策外来種に区分されています。

### 【オオマリコケムシ】

アメリカを原産とする、寒天質の巨大な群体をつくる生きものです。現時点では生物多様性への影響はほとんど知られていませんが、大きくなった群体が水門などに付着し管理に支障が起きることも指摘されています。

### 【コイ】

コイは、東北地方では縄文時代には生息しておらず、人の手によって分布を広げた可能性が高いとの報告があります。雑食性で水草、小動物などを餌とすることから、生物多様性への影響が大きい生きものです。常に餌を探して水底の泥をかき混ぜるため、コイの生息する所では水が濁ります。北アメリカでは日本におけるオオクチバスのように、コイが在来の生きものに大きな影響を与えています。

保全すべきため池などにおいて生息が確認された場合には、駆除を検討する必要があります。

### 【ブタナ】

ヨーロッパ原産とする多年草で、花はタンポポに似ています。穀物飼料に混入して、日本にやってきたとされています。

### 【ハルザキヤマガラシ】

ヨーロッパ原産とする多年草です。穀物飼料に混入して、日本にやってきたとされています。

### 【マツノザイセンチュウ】

体長 1 ミリメートルにも満たない線虫ですが、この線虫が松の樹体内に入ることによって松枯れを引き起こします。その線虫を松から松へ運ぶのがマツノマダラカミキリという昆虫です。



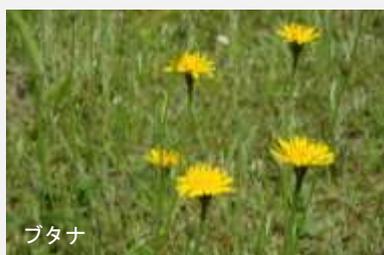
アメリカザリガニ



オオマリコケムシ



コイ



ブタナ



ハルザキヤマガラシ

### 4.3. 目標 3：生物多様性を「つなぐ」

#### 4.3.1. 目標 3-1：生物多様性の保全と利用に係る活動の広報・啓発

- **優れた取り組みへの表彰制度**：町（生活環境課、農林課）  
優れた生物多様性の保全または持続可能な利用の取り組みを行っている個人・団体に対しての表彰を行い、啓発を図ります。
- **生物多様性の保全と利用に係る取り組みの発信**：(町、町民、事業者)  
広報や町のホームページへの掲載により、町内において様々な主体が実施している生物多様性の保全と利用に係る取り組みを町内外に積極的に発信していきます。
- **生物多様性に配慮した事業活動の推進**：町（生活環境課、商工観光課）、事業者  
事業活動を行う上でもさまざまな生態系サービスを楽しむ・利用しています。このため、最近では、CSR（企業の社会的責任）の一つとして生物多様性の保全を含めた環境保全活動を積極的に行う企業が見られます。金ケ崎町内にも、生物多様性に配慮した取り組みや土地利用を進めている企業も存在します。生物多様性の保全の視点を取り入れた事業活動を行う企業が増えるとともに、企業が従業員への教育・啓発を行い、その取り組みを深化させることが期待されます。
- **他の自治体との連携や交流**：町（生活環境課）  
隣接する自治体との連携を図るとともに、「生物多様性自治体ネットワーク」へ参加し、他の自治体と交流を図り、先進的な取り組みの情報収集を行うとともに、金ケ崎町の取り組みを発信していきます。

#### 金ケ崎町における生物多様性に配慮した企業活動の取り組み事例の紹介

##### ■ トヨタ自動車東日本株式会社岩手工場

トヨタ自動車東日本株式会社岩手工場では、「緑豊かな岩手の環境との共生」を目指し、自然エネルギーの活用や森づくりなどによる生態系保護を推進しています。森づくりとしては、地域の小学生や幼稚園、地域住民と一緒にどんぐりを拾って苗を育ており、過去 5 年間で 14,400 本が植樹されています。これらの環境対策に係わる模範的な取り組みを行っていることが評価され、2012 年度に環境大臣表彰を受賞しています。

【参考文献】「環境社会報告書 2014」（トヨタ自動車東日本株式会社）

##### 【企業活動における生物多様性評価の事例】

##### ■ JBIB 企業と生物多様性イニシアティブ

JBIB は、生物多様性の保全を目指して積極的に行動する企業の集まりです。生物多様性保全に取り組む企業のための土地利用指針として「いきもの共生事業所推進ガイドライン」をまとめており、そのなかの土地利用通信簿では、生物多様性への貢献の程度や取り組みのレベルを 100 点満点で評価することができます。



▼ 自治体が相互に生物多様性の保全や持続可能な利用に関する取り組みや成果について情報発信を行うとともに、「国連生物多様性の 10 年日本委員会」の構成員として他のセクターとの連携・協働を図り、愛知目標の実現に資することを目的としています。2014 年 4 月現在で 136 自治体が参加しています。

#### 4.3.2. 目標 3-2：持続可能な農林業の推進

- **アドプト協定の推進**：町（農林課、生活環境課）、土地改良区、町民（自治会など）；**重点施策**

ため池や水路の管理を自治会などに委託するアドプト協定<sup>vi</sup>を締結した地点は、2014年度時点で10箇所あります。ため池や水路などの協定締結箇所を増やすとともに、生物多様性保全の視点を組み入れた管理（植生管理や池干しなど）を取り入れることを促します。

- **環境保全型農業の推進**：町（農林課）、JA 岩手ふるさと、農業従事者

特別栽培米など、消費者から必要とされる農産物の生産を推進します。エコファーマーなど、環境に配慮した栽培を実践する農業者の拡大を推進します。また、集落営農組織などによる荒廃地の有効利用など、耕作放棄地の解消を推進します。

- **生物多様性保全に配慮した森林整備（民有林）の推進**：町（農林課）、森林組合、林業従事者

金ケ崎町の森林面積のうち、約4割が国有林、約6割が民有林となっており、金ケ崎町の森林環境における民有林の役割は大きいものとなっています。民有林では、育成単層林施業<sup>vii</sup>と併せ、人為と天然力を適切に組み合わせた多様性に富む育成複層林<sup>viii</sup>への積極的な誘導、天然生林の的確な保全・管理を推進します。

#### 農産物の認証制度の一例

##### ■ 有機 JAS 規格

農薬や化学肥料などの化学物質に頼らず、自然界の力で生産され、有機食品の JAS 規格に適合した農産物、加工食品、飼料及び畜産物について、「有機」、「オーガニック」などの名称を表示することができます。

##### ■ FSC 森林認証

適切な森林管理が行われているか、そういった森林からの資源で製品がつけられているかどうかに着目して森林を認証する制度です。森林管理では、生物の多様性、水資源・土壌等への環境影響のほかに、社会的・経済的側面の森林機能の維持を考慮しています。

<sup>vi</sup> アドプトとは、日本語で「養子縁組」を意味します。農業用排水路やため池などの農業用施設の一部を「養子」とみなし、地域（自治会・団体・学校）や企業などが「里親」となって、従来管理している土地改良区や市町村に代わって施設の保守管理を行う制度です。

<sup>vii</sup> 森林を構成する林木の一定のまとまりを一度に全部伐採し、人為により単一の樹冠層を構成する森林として成立させ維持する施業のことです。

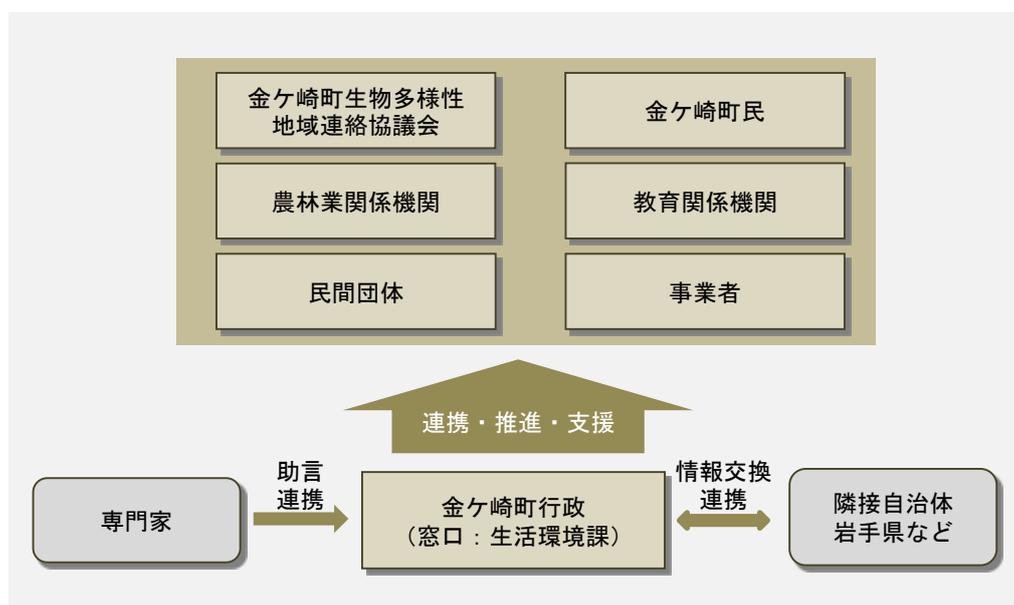
<sup>viii</sup> 樹齢や樹高の異なる樹木によって構成された森林のことです。

## 第5章 推進体制

### 5.1. 各主体の役割

「生物多様性かねがさき地域戦略」を確実に実施し、「ずっとこれからも、自然と支えあい共に生きるまち 金ケ崎」を実現するためには、行政だけの取り組みでは不十分で、町民、事業者、各主体がそれぞれの役割を十分に理解し、相互に連携しながら実施していくことが不可欠です。

主な主体	役割
町民 民間団体	生物多様性の重要性及び現状を理解し、生物多様性の保全と持続的な利用に係る取り組みに積極的に参加することが期待されます。
金ケ崎町生物多様性 地域連絡協議会	地区のお宝とする生きものの保全活動を推進し、金ケ崎町における生物多様性保全活動の先進的・模範的な取り組みを行うことが期待されます。
農林業関係機関	生物多様性に配慮した持続可能な農林業を推進し、より一層の町内の豊かな生物多様性の保全と利用に寄与することが期待されます。
事業者	生物多様性の保全の視点を取り入れた事業活動を行うとともに、多様な主体との連携を図り、金ケ崎町における生物多様性の保全と利用についての取り組みを行うことが期待されます。
教育関係機関	生物多様性に関する環境教育活動を推進し、生物多様性に関する活動を主体的に行う人材の育成に寄与することが期待されます。
町	金ケ崎における生物多様性の保全と持続的な利用を推進するために最も重要な役割を持つことを認識し、生活環境課を中心に農林課、建設課、商工観光課などの関係部署が連携し、各施策に取り組んでいきます。

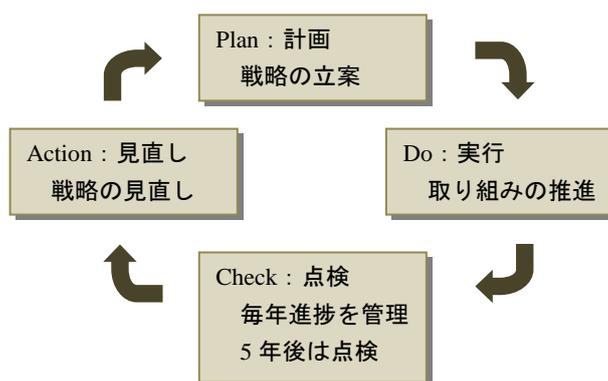


## 本戦略に関わる推進体制

### 5.2. 進捗の管理

#### 5.2.1. 点検・見直し

短期目標年は2025年としていますが、専門的視点も含めて5年を目処に中間点検を行い必要に応じて取り組み内容の見直しを行います。中間点検では、具体的取り組みが目標に即したものとなっているか、取り組みは効果的に機能しているか、改善や追加すべき事項はないかといった視点で行います。



## 本戦略の点検・見直しの流れ

#### 5.2.2. 進捗状況の公表

「生物多様性かねがさき地域戦略」に掲げた取り組みの進捗状況については、毎年、環境白書において公表します。

#### 【生物多様性に関わる問い合わせ先】

金ヶ崎町 生活環境課 電話：0197-42-2111

写真協力：佐竹邦彦（北上市立博物館）、鈴木まほろ（岩手県立博物館）

## <参考資料>

### ● 生物多様性かねがさき地域戦略策定までの流れ

#### 【2010 年度】

- 第 9 次総合発展計画の策定（重点プログラムの一つとして「自然保護プロジェクト」が掲げられる）

#### 【2011 年度】

- 自然保護プロジェクト会議の発足（行政内組織）

#### 【2012 年度】

- 生物多様性についての町民意識アンケートの実施（対象者：1,137 名）
- 生物多様性地域連絡協議会の発足

#### 【2013 年度】

- 自然観察会の開催（3 回、講師：鈴木まほろ（岩手県立博物館学芸員））
- 専門家による生き物一斉調査の実施（秋季～冬季）
- 生物多様性講演会の開催（1 回、講師：中静透（東北大学大学院教授））
- 生物多様性講座の開催（7 回、講師：平塚明（岩手県立大学教授））

#### 【2014 年度】

- 生物多様性かねがさき地域戦略検討委員会の開催（5 回）
- 自然観察会の開催（8 回）
  - ・ 駒ヶ岳自然観察会（2 回、講師：鈴木まほろ（岩手県立博物館学芸員））
  - ・ ため池自然観察会（4 回、講師：佐竹邦彦（北上市立博物館専任研究員））
  - ・ 永沢川自然観察会（1 回、講師：千葉喜彦（岩手県環境アドバイザー））
  - ・ 北部地区水路自然観察会（1 回、講師：千葉邦市（地元講師））
- 専門家による生き物一斉調査の実施（夏季～秋季）
- 生物多様性講演会の開催（1 回、講師：平塚明（岩手県立大学教授））
- 町職員に対する生物多様性研修会の開催（1 回、講師：平塚明（岩手県立大学教授））

## 生物多様性かねがさき地域戦略検討委員会の委員名簿

区分	氏名	所属
学識者	平塚 明 <sup>◎</sup>	岩手県立大学
	鈴木 正貴	岩手県立大学
	鈴木 まほろ	岩手県立博物館
	佐竹 邦彦 <sup>○</sup>	北上市立博物館
関係主体	小原 正一	金ケ崎町生物多様性地域連絡協議会
	畠山 隆	金ケ崎町校長会
	菅原 憲彦	金ケ崎企業クラブ
	阿部 均	県南広域振興局農政部農村整備室
	菊地 成壽	金ケ崎町農業委員会
	高橋 信	奥州地方森林組合
	松本 和幸	岩手中部土地改良区

※ ◎は委員長、○は副委員長を示す。

### ● 生物多様性かねがさき地域戦略検討委員会の開催状況

回数	時期	主な議題
第1回	2014年9月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>趣旨説明、運営方法の確認</li> <li>生物多様性地域戦略の概要</li> <li>金ケ崎町における生物多様性に係る現状と課題</li> </ul>
第2回	2014年10月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>(仮称) 生物多様性かねがさき地域戦略の構成</li> <li>生物多様性に関連する取り組みの方向性</li> </ul>
第3回	2014年12月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>(仮称) 生物多様性かねがさき地域戦略の素案の提示</li> </ul>
第4回	2015年 1月13～15、19日 (持ち回りによる開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(仮称) 生物多様性かねがさき地域戦略の修正案の確認</li> </ul>
第5回	2015年2月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>(仮称) 生物多様性かねがさき地域戦略の最終案の確認</li> </ul>

## 生物多様性かねがさき地域戦略検討委員会設置要綱

金ケ崎町において、生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた取り組みを推進し、生物多様性の危機にも対応しながら自然と共に支えあうまちを目指す基本かつ総合的な計画となる「(仮称)生物多様性かねがさき地域戦略」を策定するため、この要綱を制定する。

### (目的)

第1 この要綱は、生物多様性基本法(平成20年6月6日法律第58号)第13条に規定する「生物多様性地域戦略」を策定するため、「生物多様性かねがさき地域戦略検討委員会」(以下「検討委員会」という。)の設置及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

### (組織)

第2 検討委員会は、12名以内とし、次に掲げる者の中から町長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) その他町長が適当と認めるもの

2 委員の任期は、委嘱の日から平成27年3月31日までとする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (所掌事務)

第3 検討委員会は、次の事項について協議する。

- (1) 「(仮称)生物多様性かねがさき地域戦略」の策定に関する調査、研究に関すること。
- (2) 「(仮称)生物多様性かねがさき地域戦略」の策定方針に関すること。
- (3) その他町長が必要と認める事項に関すること

### (役員)

第4 検討委員会に、次の役員を置く。

- (1) 委員長

ア 委員長は、委員の互選により選出する。

イ 委員長は検討委員会を統括する。

- (2) 副委員長

ア 副委員長は、委員長が指名する。

イ 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、または委員長が欠けた時はその職務を代行する。

### (会議)

第5 検討委員会は、委員長が招集し、会議の議長となる。ただし、第1回の検討委員会の会議に限り、金ケ崎町長が招集する。

2 検討委員会は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長がこれを決する。

3 検討委員会は、公開を原則とするが、必要に応じて貴重な動植物保護の観点から非公開とする。

(事務局)

第6 検討委員会の事務局は、金ヶ崎町生活環境課に置く。

2 事務局は、検討委員会に関わる事務を行う。

(補 則)

第7 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が検討委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成26年9月29日から施行する。